



# 金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

10月6日から鋳物資料館において「やがえふ」をテーマとした企画展を開催中ですが、見ていただけでしょうか？昭和11年に県から要請を受け、東京の日本青年館で開催された第10回全国郷土舞踊民謡大会に出演した～つまり当時はやがえふが富山県の代表的民謡であったらしいことをご存知でしょうか。昭和30年には国宝松本城修復記念行事として開催された全国選抜郷土芸能祭に招請を受け、全国8地区の代表と共に北陸代表として、松本城内で弥栄節を公演したことをご存知でしょうか。そんなやがえふの歴史に改めて触れて欲しい～11月4日まで展示しています。

## カギ かけんまいけ！

盛況裏に開催された

### 第5回 金屋町楽市

9月22～23日をメインに、今年の楽市が開催された。初日は天気予報を裏切って好天に恵まれたが、2日めは少し雨に降られ、その分客足も鈍ったように感じられた。しかし西町の飲食コーナーは終了時間前に完売、トンボ玉や鋳物の製作体験は時間待ちの盛況、お茶席も盛況でした。



楽市本来の工芸作品販売の方は、著名作家の高価な商品が多かっただけに、どうだったのかなと少し心配になってしまいます。

新しい試みとして、オープニングセレモニーを昨年までの金森籐平家前からポケットパーク前に移しましたが、観客のスペースが広くとれて良かったと思います。実行委員長の伊藤教授と高橋市長が和服姿でテープカットに臨むという演出もよい雰囲気でした。

ポリゴニウムの材料を使って金屋本町交差点からの入り口にアーチ門を設置しましたが、良い雰囲気が出ていたと思います。同じくポリゴニウムの材料を使ってさまのこ風なものを作り、山田博



10月14日午前8時30分より金屋町緑地公園において、西条校下防犯連合会や高岡警察署の関係者と共に、住民およそ50名が参加して「かぎかけ運動出発式」が開催されました。

金屋町防犯委員の釜谷豊さん（宮川町）のリードにより参加者全員で宣誓し出発式を締めくくりましたが、その後「かぎかけんまいけ」の



防犯委員の釜谷豊さん

のぼり旗と共に各家庭を訪問し、チラシやステッカーを配布しました。

富山県内は住宅・自動車・自転車の無施錠被害率が、全国平均25～55%に対して60～80%と、とても高いそうです。お互いにかぎかけを心がけましょう。

康家前を飾りました。

2日めには学生による「金屋町ラジオ」が町内に放送されました。多くの和服姿の学生さん達が町なかを歩いたのはとても良い雰囲気づくりだと思いました。

## 記念シンポジウム

# 金屋町楽市と日本的まちづくり



9月21日(金)、ウィングウィング高岡において主題のシンポジウムが開催された。東京芸術大学大学院教授で彫刻家の藪内左斗司(さとし)さん(奈良のゆるキャラせんとう君の作者)が基調講演を行い、江戸時代は町人文化が発展し、経済的にも為替システムや海運業や地域工芸などが高度に発達していて、明治の初めごろには世界史の中でもトップレベルであった。地方のことは地方を構成する住民が郷土愛に基づいて築き上げる発想の転換が必要で、産業の地産地消や地場産業の育成など益々強く求められ、地方における文化を育成発展させ、独自の産業を興すことが重要と講演した。

パネル討論では楽市実行委員長の伊藤順二教授がコーディネーターをし、三菱地所(株)美術館室展覧会プロデューサーの恵良隆二さんが東京丸の内を例に江戸時代から今日までの変遷やコンセプトを、経済産業省大臣官房参事官の田所創(はじめ)さんは滋賀県長浜市黒壁の町の人通りの少ない裏通りの古民家をホテルや長期滞在型旅館やレストランに公的資金を投入して改装した事例を、ビデオも交えて紹介した。

高橋市長は、歴史の重みを若い人たちに掘り起こしてもらいたい、又「かんか」のような若い人たちのチームを応援して行きたいし、更なる別の若い人たちの参加を期待し、努力して行きたいと結んだ。

## 分科会

# クラフトイベントとまちづくり

22日(土)には神妙寺において分科会が開催され、長野県松本市から来ていただいたクラフトフェア松本実行委員長の大島健一さんとNPO法人松本クラフト推進協会理事の倉沢聡さんから事例発表があり、富山大学芸術文化学部の武山良三教授がコーディネートし、貴志雅樹教授が意見を述べました。



松本クラフトフェアというイベントを毎年5月に「あがたの森公園」で開催し、既に30年の実績があるそうです。当初は実行委員会が独自に開催していたが、次第に規模が大きくなりイベント当日に交通渋滞問題が発生した事がきっかけで、10年前から市と協力して実施するようになってから、まちづくりとの関係性が出てきた。

5月の1ヶ月間を「工芸の五月」として市内およそ20の美術館やギャラリーや商店で木工芸を中心としたクラフトイベントをし、5月末ごろの土日2日間にクラフトフェアを開催している。フェア当日は近郊の路線バスを平日ダイヤで運行し、1日乗車券300円、1回乗車券100円などと安価にして交通渋滞対策としている。なにしろ千人を超える作家が出展し、晴れなら3万5千人の来客があるそうです。